

1 二葉中学校区・舟栄中学校区の概況

二葉中学校区・舟栄中学校区は、新潟市中央区の関屋分水と信濃川に挟まれた通称「新潟島」の東部に位置し、古くからみなとまちとして栄えた地域である。

近年、人口移動のドーナツ化により人口の減少が著しく、少子高齢化が進展している。

2 学校基本情報

(1) 創立年月日（「新潟市立学校沿革略誌」（平成3年新潟市教育委員会発行）より）

二葉中学校

大正11年4月1日、新潟市立二葉尋常高等小学校として創設され、後、昭和3年4月1日二葉高等小学校となる。さらに昭和13年4月1日二葉家政女学校を併置。

昭和22年新学制の施行に伴い4月30日、新潟市立二葉中学校として創立。

舟栄中学校

昭和22年5月15日、新学制発足と同時に新潟市立舟栄中学校として創立。

(2) 小中学校配置図

別紙1

3 児童生徒数及び将来推計

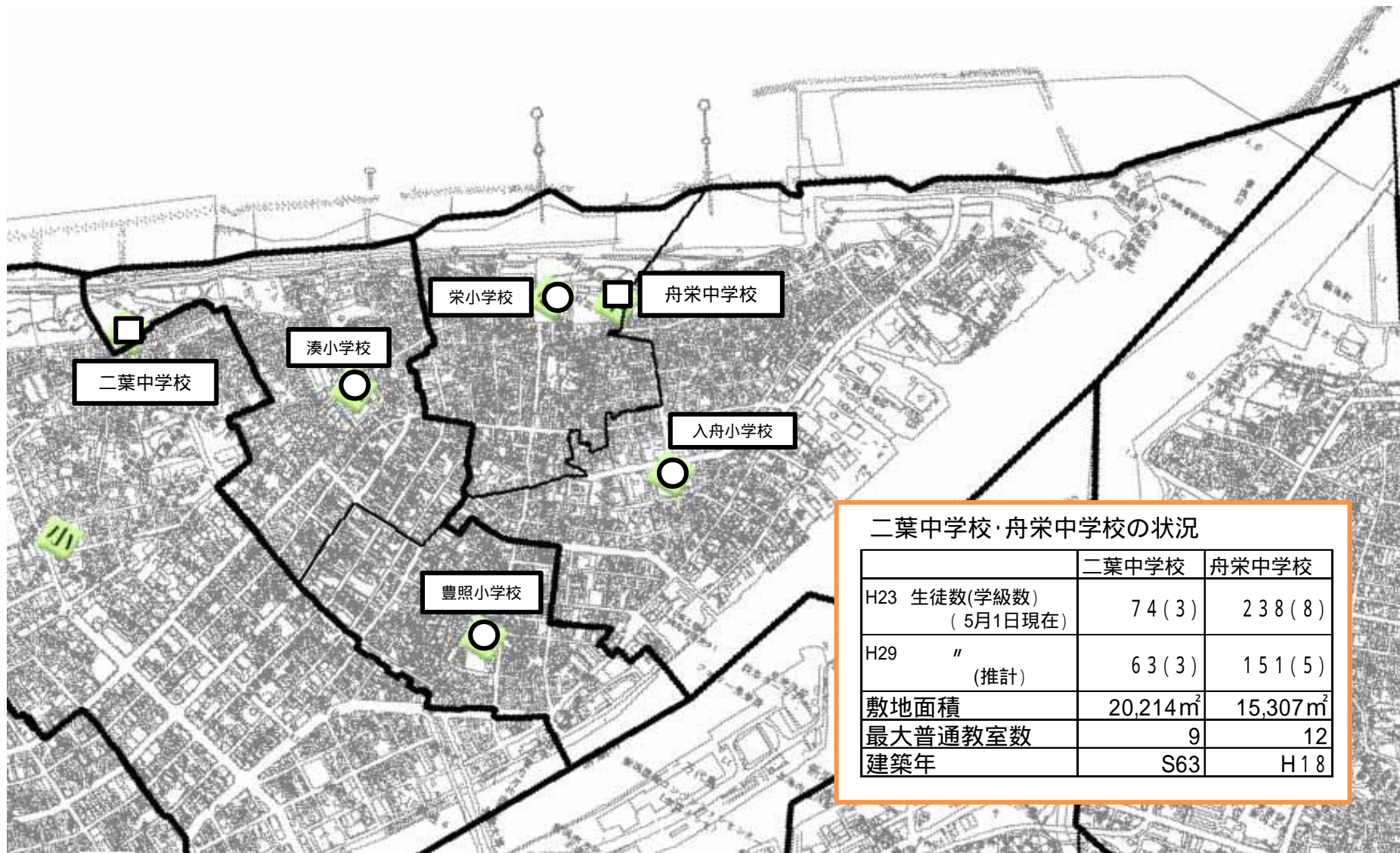
別紙2

4 小中学校の適正規模と学校適正配置基本方針

別紙3（基本方針より）

- ・学校規模による傾向（メリット・デメリット）
- ・小中学校の適正規模
- ・学校適正配置の基本方針

二葉中学校区・舟栄中学校区 小中学校配置図



二葉中学校・舟栄中学校の状況

	二葉中学校	舟栄中学校
H23 生徒数(学級数) (5月1日現在)	74(3)	238(8)
H29 " " (推計)	63(3)	151(5)
敷地面積	20,214m ²	15,307m ²
最大普通教室数	9	12
建築年	S63	H18

二葉中学校区・舟栄中学校 学年別児童生徒・学級数推計(H24～H29)

豊照小・湊小 / 二葉中

校名	学年	実数値		推計値											
		平成23年度		24		25		26		27		28		29	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
豊照	1	12	1	14	1	15	1	15	1	13	1	20	1	22	1
	2	11	1	12	1	14	1	15	1	15	1	13	1	20	1
	3	10	1	11	1	12	1	14	1	15	1	15	1	13	1
	4	16	1	10	1	11	1	12	1	14	1	15	1	15	1
	5	18	1	16	1	10	1	11	1	12	1	14	1	15	1
	6	16	1	18	1	16	1	10	1	11	1	12	1	14	1
	計		83	6	81	6	78	6	77	6	80	6	89	6	99
湊	1	9	1	12	1	15	1	14	1	12	1	10	1	7	1
	2	6	1	9	1	12	1	15	1	14	1	12	1	10	1
	3	15	1	6	1	9	1	12	1	15	1	14	1	12	1
	4	18	1	15	1	6	1	9	1	12	1	15	1	14	1
	5	15	1	18	1	15	1	6	1	9	1	12	1	15	1
	6	22	1	15	1	18	1	15	1	6	1	9	1	12	1
	計		85	6	75	5	75	5	71	5	68	5	72	6	70
校名	学年	平成23年度		24		25		26		27		28		29	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
二葉	1	16	1	38	1	33	1	34	1	25	1	17	1	21	1
	2	24	1	16	1	38	1	33	1	34	1	25	1	17	1
	3	34	1	24	1	16	1	38	1	33	1	34	1	25	1
	計	74	3	78	3	87	3	105	3	92	3	76	3	63	3

着色してある学年は、複式学級です。

栄小・入舟小 / 舟栄中

校名	学年	実数値		推計値											
		平成23年度		24		25		26		27		28		29	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
栄	1	8	1	16	1	15	1	19	1	13	1	20	1	17	1
	2	11	1	8	1	16	1	15	1	19	1	13	1	20	1
	3	23	1	11	1	8	1	16	1	15	1	19	1	13	1
	4	23	1	23	1	11	1	8	1	16	1	15	1	19	1
	5	18	1	23	1	23	1	11	1	8	1	16	1	15	1
	6	16	1	18	1	23	1	23	1	11	1	8	1	16	1
	計		99	6	99	6	96	6	92	6	82	6	91	6	100
入舟	1	30	1	38	2	30	1	20	1	31	1	27	1	36	2
	2	39	2	30	1	38	2	30	1	20	1	31	1	27	1
	3	40	2	39	1	30	1	38	1	30	1	20	1	31	1
	4	48	2	40	1	39	1	30	1	38	1	30	1	20	1
	5	41	2	48	2	40	1	39	1	30	1	38	1	30	1
	6	50	2	41	2	48	2	40	1	39	1	30	1	38	1
	計		248	11	236	9	225	8	197	6	188	6	176	6	182
校名	学年	平成23年度		24		25		26		27		28		29	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
舟栄	1	75	2	66	2	59	2	71	2	63	2	50	2	38	1
	2	82	3	75	2	66	2	59	2	71	2	63	2	50	2
	3	81	3	82	3	75	2	66	2	59	2	71	2	63	2
	計	238	8	223	7	200	6	196	6	193	6	184	6	151	5

学校の規模による傾向（メリット・デメリット）

学校の規模により、子どもたちや教員、学校にどのような傾向があるのか以下のとおりまとめてみました。

小規模校と大規模校の比較

		小規模校	大規模校
メリット	教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数が少ないため、教職員の目がよく行き届き、個人への指導が行いやすくなります。 ・一人ひとりの子どもの活躍の場が増えて、集団への所属感や自分が周りの役に立っているという意識を持ちやすくなります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの出会いからさまざまな経験ができ、忍耐力や包容力を身に付ける機会に恵まれやすくなります。 ・クラス替えにより人間関係を再構築することができます。
	指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が子どもの能力や個性を理解し、いろいろな場面で適切な指導が行いやすくなります。 ・少人数で小回りが利くため、体験活動などが行いやすくなります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、技能教科の教員が適切に配置され、専門的な指導が行いやすくなります。 ・学校内の教員同士で教科の研修や悩み事の相談が行いやすくなります。
	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域からの支援・協力が得られやすく、地域に根ざした教育が行いやすくなります。 ・学校や地域，親同士のつながりが強くなりやすくなります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事などで組織力を生かしたダイナミックな教育活動を展開できます。
デメリット	教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人数が少ないので多様な意見に触れることが少なく、自分の考えを持ったり、見直したりするきっかけがつかみにくくなります。 ・1学年1学級になるとクラス替えができないため、人間関係の固定化につながりやすくなります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が多すぎると子どもたちと教員の関係が希薄になりやすく、教員は、子どもたちを深く理解することが難しくなります。 ・静かで落ち着いた生活環境が出来上がりにくくなります。
	指導体制	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内の教員数が少ないと校務の相談や分担が行いにくくなります。 ・教員の配置が少なく、中学校では、専門教科以外の教員から指導を受ける場合があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は、共通理解に基づいた意思統一が難しく、指導や取り組みの徹底が図りにくくなります。 ・人数が多いため、小回りが利かず、柔軟な対応ができにくくなります。
	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が少ないため、学校行事などで保護者の負担が大きくなります。 ・教員が出張などで不在の際、代替りの教員による授業が組みにくい場合があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級数が多くなると、特別教室の確保が難しくなり、教育活動に支障をきたす場合があります。 ・一人あたりのスペースが少なく、子どもたちの活動が制約されやすくなります。

小中学校の適正規模

学校内で環境の変化を作りだし、さまざまな経験ができるよう、クラス替えが可能な学校の規模

子どもたちが互いに競い合いながら成長でき、子どもたちも教員もお互いに顔がわかり、信頼関係が築きやすい規模

教員間で授業の共同研究や指導方法の相談ができる規模

特に中学校では、すべての教科に専門教員が配置できる規模

教員同士の意思統一が図りやすく、子どもと教員が向き合い、個々のこどもをよく理解できる規模

保護者の負担が過大にならず、教員が学校を不在にする場合でも子どもたちへの授業や指導ができる規模

特別教室の割り当てが無理なくでき、十分なスペースがある安心して過ごせる規模



適正規模 小学校 12～24学級（各学年2～4学級）
中学校 9～18学級（各学年3～6学級）

学校適正配置の基本方針

- 1 すべての小中学校は適正規模であることが望ましいと考えます
- 2 地域の合意のもとに進めます
- 3 緊急性の高い学校から協議を始めます
- 4 現在の通学区域（学校区）を基本に考えます
- 5 地域の実状を考えながら協議します

具体的な検討事項

項 目	ご 意 見	地域検討会のまとめ
統合の方法 ・ 編入		
・ 合併		
校舎 ・ 二葉中の校舎を使う		
・ 舟栄中の校舎を使う		
校名 ・ 二葉の名前を使う		
・ 舟栄の名前を使う		
・ 新しい名前を使う		
子どもたちの教育活動 ・ 在生徒の教育		
その他 ・ 閉校事業		

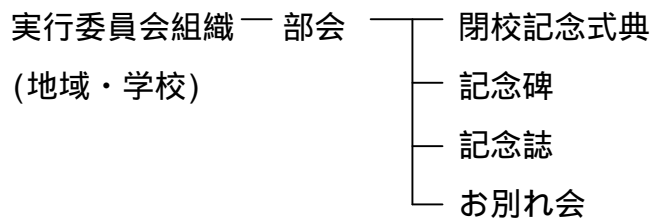
統合にあたっての課題

- 統合の方法
- 使用する校舎
- 校名をどうするか
- 子どもたちの教育活動
 - ・ 交流活動
 - ・ 修学旅行などの行事
 - ・ 異なる学期制（二葉中学校：3学期制，舟栄中学校2学期制）
 - ・ 3年生でのクラス替え
 - ・ 部活動
- 保護者や同窓会
 - ・ 保護者の経費負担（体操着，部活動ユニフォーム，副教材等）
 - ・ 交流活動
 - ・ PTA 組織づくり
 - ・ 同窓会の組織（卒業生，今後の卒業生への対応）
- 統合の時期

閉校にあたっての課題

【 過去の例 】

○ 閉校記念事業



○ 記念誌作成

(案作り) 1 作成のねらい

2 記念誌の名称

3 構成 ・ 写真（校舎全景（以前の校舎，学校の様子（教室風景・・・）

・ はじめに（巻頭言：市長 閉校に寄せて：教育長 その他）

4 あいさつ 閉校記念事業実行委員長，PTA 会長，その他

5 写真で振り返る学校

6 思い出（在校生徒，職員）

7 閉校に寄せる言葉（歴代 PTA 会長，歴代校長，同窓生代表，その他）

* 原稿依頼 収集等の作業